

## 「頭足類の多様性(2)」～オウムガイの進化～

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

軟体動物は、古生代から現在まで、地球上で安定して繁栄してきた。最も繁栄していたのは、中生代である。そのことは、おびただしいアンモナイトの化石が、世界中から発見されていることでも裏付けられる。特にオウムガイの仲間は、古生代オルドビス紀(約4億5千万年前)には出現している。



「古生代のオウムガイ」(直角貝) *Orthoceras sp.*

母岩横15cm / モロッコ産 / 母岩研磨 / 田中標本

直角貝は、珍しい化石ではなく、博物館の売店や鉱物・化石ショップでも簡単に手に入る。モロッコなどで大量に産出され、母岩が研磨された状態で輸入されるからだ。私は、どこかの「ガチャポン」で、この化石の小さいのを、200円で売っているのを見たことがある。化石には、もう少し敬意を持ちたいものだ。

古生代の、出現初期のオウムガイは、巻きのない直線形であった。次第に先端部から巻き出して、現在の形になった。



「中生代のオウムガイ」 中生代 / 長径12cm

大きさ・臍孔等の形状とも、現生オウムガイに酷似。

属種名不明(恐らく *Nautilus sp.*) / 田中標本

中生代には、すでに現生オウムガイとほぼ同じ形状の化石が見つっている。古生代の種(化石)から、現生種まで、一貫してオウムガイ亜綱 *Nautiloidea* (ノーチロイデア) に属している。亜綱は綱よりも更に下位の分類群ある。4億5千万年もの間、これほど下位の分類群が絶滅しなかった生物は、細菌やバクテリアを除けば、非常に稀だろう。オウムガイが、”living fossil”(生きている化石)と呼ばれる真の理由は、この「種族の長命さ」にあると思う。(つづく)

「先端だけが巻いたオウムガイ」 *Trilacnoceras sp.*

上海の「文化人民街」で鉱物商から入手。1個300円という破格だったので、10個も購入。重かった。

横17cm / 古生代オルドビス紀 / 中国産 / 田中標本

